

大黒屋光太夫 記念館だより



発行： 鈴鹿市

問合先： 大黒屋光太夫記念館

三重県鈴鹿市若松中一丁目 1-8

059-385-3797 (Fax 兼用)

ホームページ <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu/>



お知らせ！ 7月から休館日が変わります

7月からは休館日が月曜・火曜・第3水曜日に変更になります。月曜日が祝祭日の場合は開館します。

記念館NEWS

▼4 月から新しいスタッフがみなさまをお迎えしています▼

記念館開館当初からの職員・伊藤美恵子さんが3月で退職されました。伊藤さんは、明るく気さくな人柄で記念館に笑顔を振りまいてくださいました。4月からは、山口栄美子さんが新しいスタッフとして山下さんとともに頑張ってくださいました。地元・若松在住で、伊藤さんに負けないくらい明るい方です。記念館受付にありますので、気軽に記念館へお立ち寄りください。

▼4 月から展示が変わりました▼

毎年、4月からは「光太夫の里がえり」と題し、鈴鹿市指定文化財・大黒屋光太夫らの帰郷文書を公開してまいりましたが、今年は企画を一新して、「北槎聞略でたどる 光太夫の旅」として展示替えを行いました。

蘭学者・桂川甫周の編さんした「北槎聞略」は、光太夫の漂流記としてだけでなく、江戸時代のロシア研究書としてもとても有名な書物ですが、全12巻のうち、2・3巻は「飄海送還始末」といって、光太夫が漂流してから帰国するまでの出来事が綴られています。今回の展示では、この「飄海送還始末」に沿って、光太夫の足跡を追う内容になっています。是非、ご覧ください。

▼本やビデオ・テレビで紹介されました▼

- *「日本史有名人物事典」 PHP 研究所
- *「世界のみなど物語」 バス・コーポレーション
- *『中学校社会科歴史ビデオ教材 「日本の歴史—近世の日本」編』 (株)アイジーピー
- *三重県高等学校日本史研究会 「三重県の歴史散歩」 山川出版社
- *三重大学人文社会科学部研究科 地域交流誌「TRIO 第9号」
- *三重県内の中学生向けの副読本「英語で道案内(三重県版)」 東京書籍
- *『時の散策 鈴鹿編「漂流者たち」』 ケーブルネット鈴鹿(15分番組)
- *「クイズプレゼンバラエティーQさま!!!」 テレビ朝日

▼展覧会のご案内▼

今年は松平定信生誕 250 年です。

ラクスマンが光太夫らを伴って来航した時、幕府の老中として実権を握っていたのが松平定信でした。そのため、定信は、幕府のラクスマン一行への対応や光太夫たちの受け入れ方針の決定にも大きな影響力を持っていましたし、将軍家斉が光太夫と磯吉を江戸城内で引見した時にも桂川甫周らとともに同席していました。光太夫とは浅からぬ縁があるのです。鈴鹿市では、この展覧会に「漂流人帰国 松前堅之図并異国人相形図」など4点を出品協力します。是非お出かけください。

桑名市博物館 春季企画展 白河市友好都市締結 10 周年記念
「生誕 250 年 松平定信展」

会期 4 月 19 日(土)～6 月 1 日(日)

桑名市博物館 桑名市京町 37-1 TEL:0594-21-3171

▽伊勢若松駅からの道順に看板を取り付けました。▽

伊勢若松駅から記念館までの道筋がわかりにくい、という声にお応えして看板を取り付けました。また、伊勢若松駅に記念館までのマップも置かせていただいております。伊勢若松駅から記念館までは、およそ 1.2km。歩いて 15 分程の道のりです。少し距離がありますが、天気の良い日にはウォーキング気分でお越しください！



▼文化課所管の他の資料館・記念館にも是非お越しください！▼

鈴鹿市文化振興部文化課では、大黒屋光太夫記念館の他に伊勢型紙資料館・稲生民俗資料館・庄野宿資料館・佐佐木信綱記念館・前川定五郎資料室を所管しています。記念館にお越しの際には、是非一緒にお出かけください。パンフレットご希望の方は、記念館の受付まで。

また、昨年 4 月に鈴鹿市役所西館にオープンした郷土資料室では、鈴鹿市所蔵の郷土資料が閲覧できますので、ご利用ください。今年度は、ケーブルネット鈴鹿の「古文書講座」という番組にも協力しています。毎月 24 日～月末の 10:15～ 13:15～ 17:15～ 20:15～ 23:00～ 25:00～に放送されますので、古文書に興味のある方は是非ご覧ください。（予定は変更になることがあります。詳しくは CNS にお問い合わせください。）

▼市役所にも光太夫▼

市役所の西玄関で稲垣克次さん制作の「大黒屋光太夫像」が皆様をお出迎えしています。鈴鹿市役所にお越しの際は、西玄関の光太夫にも会いに来てください。

事業報告

*平成 19 年度 展示室入館者数

入館者数 4556 人 開館日数 247 日 平均 18.4 人/日 開館時間 10:00～16:00

*平成 19 年度 展示活動

平成 19 年 4 月～ 6 月 春の企画展「光太夫の里がえりⅡ」
 平成 19 年 7 月～11 月 子ども展示「知っておどろき！大黒屋光太夫」
 平成 19 年 11 月～12 月 第 3 回特別展「伊勢湾近辺の漂流者たち」
 平成 19 年 12 月～20 年 3 月 冬の企画展「光太夫が書いたロシア文字」

*出版物

第 3 回特別展「伊勢湾近辺の漂流者たち」図録

おしらせ！ 7月から休館日が変わります

7月からは休館日が月曜・火曜・第3水曜日に変更になります。月曜日が祝祭日の場合は開館します。

記念館の裏側② 展示室の光について

記念館のアンケートに「展示室を明るくして欲しい」というご意見をいただくことがたまにあります。

「 私たちも、明るい照明の下で展示品を見ていただきたいと思います。でも、そうできない理由があるのです。実は、この明るさというのが、展示品を保存するためにとても重要なのです。今回は、「光」と「展示品」のお話です。

「 光は、古文書や絵画など記念館に収蔵している展示品にとって、実は大敵です。特に、光の中に含まれる紫外線には、展示品を退色させたり、ボロボロにしてしまう働きがあります。日にあたるとポスターの色があせてしまうのもこのためです。そのため、記念館では紫外線を除去した蛍光灯を採用して、展示品が劣化するのを防いでいます。しかし、それでも強い光を長時間当て続ければ、大事な展示品が徐々に劣化していってしまうのです。

「 そのため、記念館では、展示品の劣化を防ぐために、ケース内の照度を落としています。一般に彩色された紙資料を展示する際には80ルクス以下が理想とされています。記念館のケースの照度は、この照度ギリギリに設定しています。「だったら、ケース内の照度を落とす代わりに、展示室の照明を明るくすればいい」と思われるかもしれませんが、実は、そうしてしまうと、ケースのガラスに外のライトが反射して、却って展示品を見づらくさせてしまうのです(この現象を「眩輝」といいます)。そのため、展示室をケース内より暗くする必要があります。

「 大事な光太夫の資料をボロボロにしないために、一番良いのは、誰の目にも触れさせずにしまっておくことでしょう。でも、それでは、記念館を訪れてくださった方に光太夫のことを知っていただくことはできません。展示をするからには、劣化してしまうことは覚悟しなければならぬわけですが、その劣化をなるべく緩やかにしながら展示する必要があります。そのギリギリの妥協点が現在の展示室の明るさなのです。

教えて！こうだゆうくん！！①

このコーナーでは記念館によく寄せられる問い合わせをご紹介します。



Q.光太夫は、岩波の年表などによると、幸太夫とも記されていますが、「幸」の字を使う場合もあるのでしょうか。

A.「光太夫」と「幸太夫」、どちらが本当？という質問は、よくあります。実は、どちらも間違いではありません。

幕府の公文書をはじめ、おおよくの書類にはほとんど「幸」の字が使われていますが、光太夫本人が書いたものには「光」が多く使われており、光太夫自身は「光」の方を好んでいたようです。徳川家光の「光」の字に遠慮したため「幸」が使われているという意見もありますが、字の遠慮(偏諱といいます)は基本的には一代限りですので、適当ではないでしょう。江戸時代は、音が同じであれば割と自由に当て字を使いますので、「光太夫」でも「幸太夫」でもあまり気にならなかったのではないのでしょうか。他にも「幸太輔」とか「考太夫」とか書かれているものもあります。

このように、字が統一されていないための混乱もありますが、実は、いいこともあります。「光太夫」「幸太夫」などのいろいろな表記がされているために、“みつだゆう”や“さちだゆう”ではなく、“こうだゆう”と呼ばれていたことがわかるのです。

頻度としては「幸太夫」が一番多く、次に「光太夫」ですが、鈴鹿市では、本人が「光」を用いることが多いので光の方を採用しています。

表紙の説明

阿羅娑国衣服器物目録 (おろしゃこく いふく きぶつ もくろく)

寛政 11 年 3 月に京都・伏見桃山で行われた小市の遺品の展示会の出品目録です。小市の遺品は、京都でも盛大に披露されていたことがわかります。実際に配布されたのは刷り物だったと思われますが、これは、昭和 10 年に京都・島原の角屋で模写されたもので、小市の菩提寺である宝祥寺から鈴鹿市に寄贈されました。